

第2分科会（中学校における特別支援教育）

テーマ 「生徒が自分のペースで取り組み、自信をもてる」授業のための支援

－ 安心、楽しみ、学びのある環境の中で －

諫早市立長田中学校 教諭 渡部 隆

1 はじめに

本校は1年生35名、2年生31名、3年生41名で、全校生徒107名の小規模校である。特別支援学級は、知的障害学級1クラス（1年生1名）、自閉症・情緒障害学級1クラス（3年生1名）である。特別支援学級の生徒と通常の学級の生徒と関係は良好で、お互いを受け入れ、声をかけたり、助け合ったりしている。また、週に1回スクールカウンセラーと心の教室相談員も来校して、支援や相談業務を行っている。

本発表は、知的障害学級（通称 なのはな学級）の生徒について、今年度4月入学してからの取組を実践報告としてまとめたものである。

2 本校の特別支援教育

（1）特別支援教育の目標

①全職員による関わり

- ア 『『困り感』をもつ生徒』の情報共有と適切な指導
- イ 特別支援教育についての周知・実態把握（研修）
- ウ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の策定と実施
- エ 交流学習の充実

②特別支援教育の一般化・日常化 「どこの学校にもいるという認識の中で」

- ア 組織的な対応と情報の共有化
- イ 担任や特別支援コーディネーターを中心とした個別の支援・指導
- ウ 学びやすい教室の環境作り
- エ 心の教室相談員と連携・充実

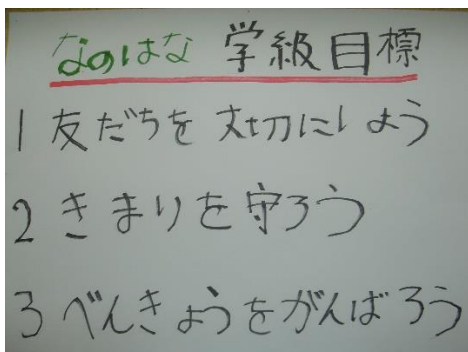
（2）校内教育支援委員会

- ①頻度…3週間に1回（スクールカウンセラー来校日に設定）
- ②組織…校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、各学年の特別支援教育担当者、養護教諭
- ③内容…特別支援学級の生徒、通常の学級で特別の支援を必要とする生徒について報告、情報共有、助言
- ④情報共有…教育支援委員会に参加しない教員には、報告シートと会議録を回覧

3 1年 当該生徒の様子

(1) 生活面

①学級目標



4月、「全力でがんばる一年にしよう。」と学級担任から声をかけ、なのはな学級の学級目標を生徒と学級担任とで話し合っ左の三つを考えた。

〔写真1〕

②交流学級の生徒との関わり

長田小学校からの馴染みもあり、気心も知れ、交流学級の生徒との関係は良好である。技能教科、特別活動、総合的な学習の時間を交流学級で授業を受け、給食、清掃、係活動も協力して活動している。

③専門委員会

図書・美化委員会に所属して、図書室で貸出当番を友だちと協力して担当している。自分の役割を果たし、自己有用感を高め、他学年の生徒とのコミュニケーション力を身に付けている。

④部活動

卓球部に所属している。体力と技能の向上だけではなく、異年齢、同年齢の部員との関わり方、社会性、協調性を身に付けている。

(2) 学習面

①交流学級、知的障害学級で受ける授業

学 級	教 科 等
交流学級で受ける授業	音楽、美術、保健体育、技術・家庭 総合的な学習の時間、特別活動
知的障害学級で受ける授業	自立活動、国語、数学、理科 社会、音楽 保健体育、家庭、道徳

②理科や自立活動における様子

作業や実習等をとおして、働く意義を理解させ、達成感を高め、また、自然への感謝の気持ちを育てるために畑作業に取り組んでいる、5月末に学校園に芋の苗を植え、ほうれん草の種をまいた。作業しやすいように体操服に着替えるように勧めたが、着替えようとしなかった。その後、水やりを続けて、大きく育つことを楽しみにしている。



〔写真2〕芋の苗を植える



〔写真3〕ほうれん草の種をまく

「芋の苗植えとほうれん草の種まき」の感想 5月24日

きのうほうれん草のたねまきといものなえうえをしました。よごれてたいへんでした。ずぼんがよごれましたが、がんばりました。あつかったです。水やりもけっこうたいへんでした。おおきくそだってほしいです。いもがりっぱにはえてほしいな。水やりがんばります。

ほうれん草が大きく成長する前に、ほうれん草の間隔を空けるために間引きをした。ほうれん草を50gずつ秤で分け取り、本校職員に感謝の気持ちを込めて配った。秋から作業学習として、人参、ブロッコリー、大根を育てる予定である。



〔写真4〕ほうれん草の間引きをする



〔写真5〕50g測って袋に入れる

「ほうれん草の間引き」の感想 6月9日

ほうれんそうのまびきをするとき、ちゃんとはばをあけてとりました。なのはなのきょうしつで、さいしょ100ぐらむずつわけました、でもおおかったので、50グラムずつにしました。そうしたら、10にんぶんにちょうどわけました。はかるときがいちばんたのしかったです。あとせんせいたちにもほうれんそうをくばりました。ほうれんそうがおいしかったらいいです。

4 学習支援の方針

「生徒が自分のペースで取り組み、自信がもてる」授業を実感するために五つの方針を考えた。

- (1) 本人ができるようになったこと、頑張ったことは、すぐに褒める。
- (2) 本人の考え、答えを否定せず、聴いて、まずは受け入れる。
- (3) 教具や遊具は本人の目につき、手が届く所に置く。集中したらすぐには止めない。
- (4) 説明や指示は、短く簡潔に行う。
- (5) 注意は、抽象的な言い方はせず、分かりやすく伝える。

5 学習支援の実際

(1) 授業の工夫

- ①教科の垣根を超えて、教材文を音読させ、読めない漢字、読みにくい表現などがあったら、教師が範読する。
- ②下学年の教材やワークブックを活用する。繰り返しや復習がすぐできるようにする。
- ③タブレットとモニターで、「NHK for school」「navima」「新ネットレの学習教室」(ドリル学習)、「Google Earth」(地図上で位置確認)を使って理解を深める。



〔写真6〕タイムタイマーで時間を意識して活動する



〔写真7〕都道府県の読み方と位置を確認する



〔写真8〕地球儀を使って海外の都市等の位置を確認する



〔写真9〕メジャーで模型の高さを測る



〔写真10〕秤を使って重さを測る



〔写真11〕直定規を使って長さを測る



〔写真12〕「NHK for school」で植物の育て方を視聴する



〔写真13〕「新ネットレの学習教室」で計算練習をする



〔写真14〕「Google Earth」で長田地区
周辺を確認する

〔写真15〕「navima」で計算練習をする

（2）学習環境の工夫

興味関心をもって、学びが深められるように手が届く所に地図、秤、メジャーなど教具を置いている。教具を「学び」、「遊び」スペースとして、まとめて配置している。

①「学び」スペース

メジャー、地球儀、日本全図、諫早市全図、アルファベットカード、タブレット、液晶モニター、計算機、秤、模擬のお金、タイムタイマー、壁時計（特別支援教育用）、英単語ピクチャーカード、ワークブック、反対言葉カード、ことわざカードなど

②「遊び」スペース

レゴ、カプラ、ビーズ、トランプ、オセロゲーム、けん玉、折り紙、かるた、英語の歌（BGMとして）など

6 おわりに

授業など様々な時間を過ごす中で、本人の特性や能力を把握できるようになり、個別指導を日々工夫しているところである。

本人の興味関心があること、得意なこと、自信があることを自分の特性として大事にさせ、自己肯定感を高め、もてる力をフルに学習や生活に生かし、つまずきを自力で解決できるようにさせたい。そのために目をかけ、声をかけ、努力は認め、スモールステップで成功体験を重ねさせ、自己肯定感を高めさせ、社会的自立に必要な能力や態度を身に付けさせたい。

学級担任が先回りして、失敗させないように手を出すのではなく、本人に「うまくいかない、失敗したらどう対応する、次どうすればいいか」等を考えさせ、うまくいかなかったことから学ばせたい。「待つこと」が最も大切だと考える。